

# NIEノートから見える世界・学ぶ世界

西宮市立平木中学校 校長 鍛示 英子  
教諭 渋谷 仁崇

## ○実践の概要と内容

### 1. 「NIEノート」

本校では、生徒たち一人一人が「NIEノート」を作成している。その中で社会全体や世界の動きを通し、社会科への関心・興味を高める狙いがある。

NIEノートは、授業がある前日に、各自が新聞記事の中で、興味を持ったものをスクラップし、重要な個所に線を引いてノートに貼り、感想を書く。

また、社会科授業で、各自の記事の内容と感想を発表し、意見交流している。

また、廊下などに新聞記事を掲示している。他にも、朝読書の時間に「朝NIE」として、共通の新聞記事を配布し、文章の読み取りと、その記事への感想を書かせている。

平成26年度の第2学年の生徒では、1800記事以上(18冊以上)集める生徒もいた。全体の平均は112記事。



## ○生徒配布用プリント

### ★NIE (Newspaper in Education)

【毎授業 最初7分程度】

最近の新聞から、記事を切り取り、ノートに貼り、自分なりにまとめたものを発表。

(発表できないもの＝スポーツ結果(毎日あるもの)、天気予報など)

→定期テストに時事問題として出題。

新聞をとっていない人は、テレビのニュースを聞いたり、インターネットなどプリントアウトしたりするのも可能。

### ★NIEノート

(授業中に回収します。欠席者以外遅れての提出は認めません。)

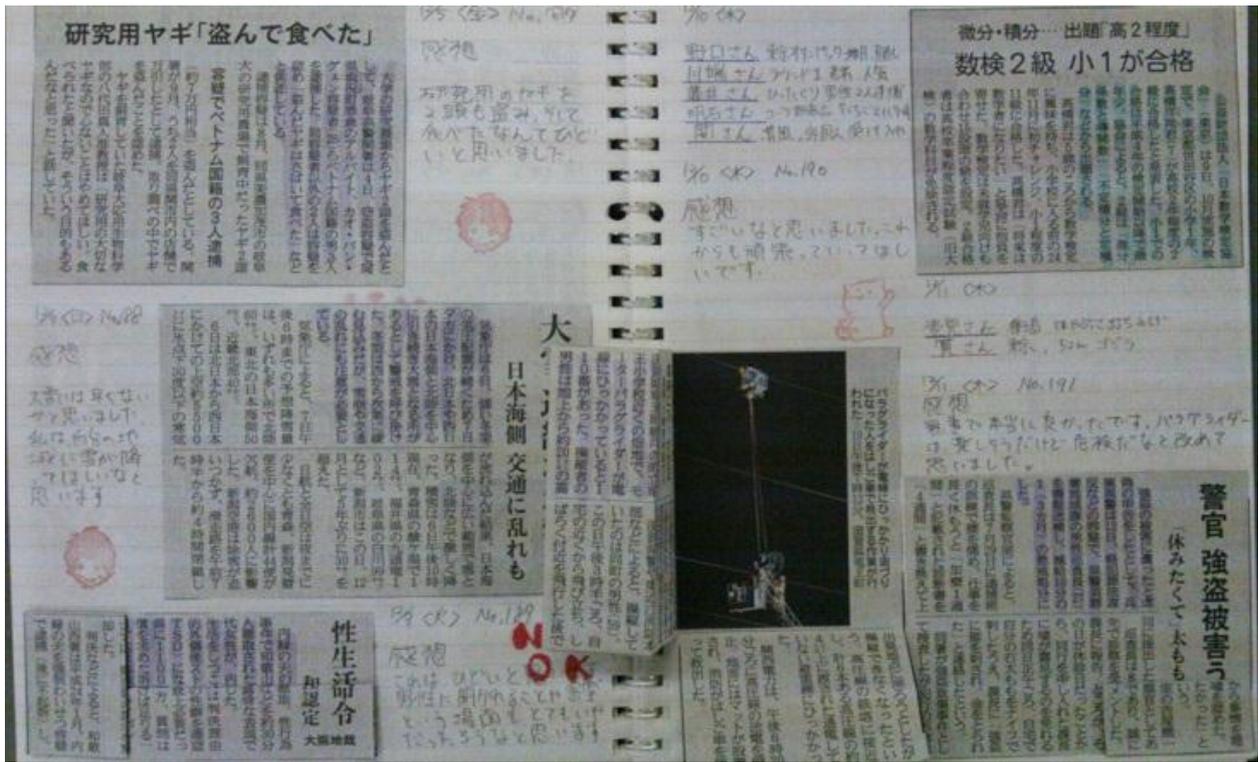
視点1、どれぐらいの頻度で記事をまとめているか。授業数が基準。

2、新聞を、きれいに切り取り、張ること。

3、「日付」、記事の「まとめ」、自分の「感想(15文字以上)」をしっかりと書いているかどうか。

1と2と3ができていれば「A」

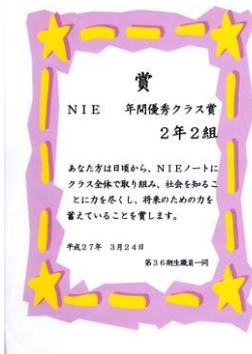




「NIE発表について」の狙い  
「ことばの力を伸ばす」

- 「分かりやすくまとめる」  
「大きな声」  
「感想」をテーマに発表させる。
- ・正しい日本語を読む力。
- ・記事の内容を理解し、まとめる力。
- ・自分の感想を表現する力。
- 全てではなくていいので、記事の要点を絞り、メモを取る。
- ・記事への興味・関心を持たせる。
- ・聞く力 ・まとめる力 ・書く力

★クラス賞 (NIEの取り組みを評価)



2. NIEコーナー

(新聞の置き場・整理)



気になったニュースを、テーマ別に集めて、いつでも読めるようにしている。社会科係が掲示用記事を作成。

### 3. N I E川柳



N I Eノートから、1年間で自分の気になるニュースを選び、5・7・5の川柳にした。

テーマは、政治・経済・国際・スポーツなど。授業の中で、作品の発表交流会を行い、各クラスの優秀作品を投票で選んだ。

生徒作品（冬季課題）

白鷺城  
大修理後は  
「白すぎ城」

結弦くん  
金メダルは  
ゆずれない

青信号  
知らなかったが  
ノーベル賞

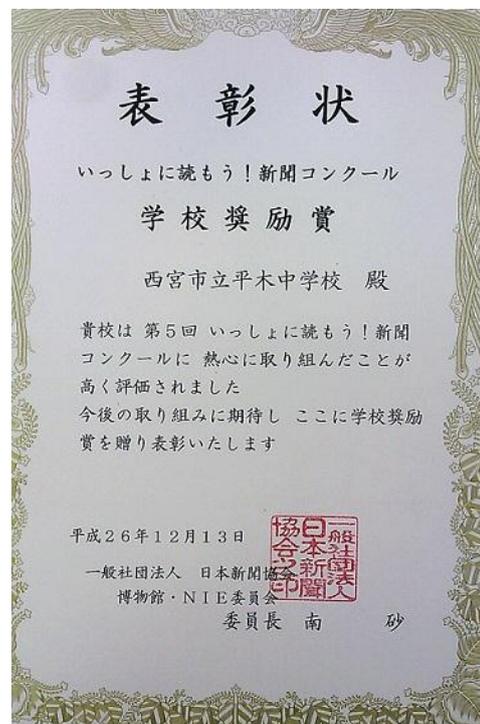
赤サンゴ  
尖閣諸島も  
とっちヤイナ

### 4. 「いっしょに読もう！

#### 新聞コンクール」

#### 学校奨励賞 受賞

日本新聞協会が主催する「第5回いっしょに読もう！新聞コンクール」に取り組んだ。夏休みの課題として、家族や友達と記事を読み、感想や意見を全校生で応募した結果、学校奨励賞を受賞した。



### 5. 新聞記者派遣

N I E推進事業の一つである新聞記者派遣を行った。日本経済新聞の記者の方に、体育館で1年生全員に対して「記事の作り方」「取材の仕方」「写真の撮り方」などを講話していただいた。

### 〔生徒感想〕

分かりやすくて良かった。記事が起承転結を使って書くと言っていて、総合の新聞作りに使えそうだった。とても聞くのがうまくて、ほくも話してみたかった。

新聞を作るときや取材をするときにも、いろんなことを考えているんだなと思った。貴重な話を聞けて良かった。この経験をトライやるウィークに生かせるようにしたい。

新聞記者はあまり好きではなかった。なぜなら、押しかけ取材、しつこい質問など、たくさんあるから。でも、今日の話聞いていたら、少しイメージが変わった。記者の方々は「記事を作らなければならないのだから」と誤解していたことが、少し恥ずかしい。また、記者の仕事の大変さに驚いた。読む人の気持ちになって書く。なお面白く、短時間でスピーディーに書くのは、とても大変そうだなと思った。有名人に会えるのは、うらやましかった。私なら、アイススケートの羽生結弦選手や、浅田真央選手に会いたい。

新聞を書くのは大変だろうなと思っていたが、話を聞くと、想像以上に大変そうだった。「大きな記事は、1カ月ほどもかけて書く」と言っていたことや、1日の新聞は1000人くらいで作っていることに驚いた。NIEは、見出しでこの記事の宿題にしようというも決めたりしているので、これもやはり考えられていたんだなと思った。

新聞記者の人は、たくさんの努力をして新聞を作っているんだなと思った。いつもあまり読まないし、読んでも何も思わずにいたが、裏ではたくさんの人が頑張っているんだと知った。これからは、そんなことも考えて読みたい。そして、もっと新聞を読んでみようと思った。



## 6. 授業研究会

「税」の学習で新聞活用

西宮市立平木中学校は3月6日、校内で「学び合」と「言葉の力」をテーマにした授業研究会を開いた。写真。同校では、生徒が5年前から「社会科NIE（ネット・インフォメーション）」に取り組んでいる。導入当初は、社会科に興味・関心の低かった生徒も、新聞から好みの記事を切り抜いて貼っていくうち、視野が社会全体に広がり、学習意欲が高まってきたという。

今回の研究会では、渋谷仁泰教諭が中心となり、生徒たちに徐々に培われてきた基礎学力をベースに、日

高く、さまざまな角度から報道されたニュースや解説記事を持ち寄り、頭をひねった。

生徒たちの間で意見が分かれたのは「消費税率」。北欧諸国の税率に比べると、来年に予定される「10%」でさえ低く感じる者もあり、「理想の税率」の難しさをあらためて感じているようになった。

渋谷教諭は「税に関する記事や資料を読み取って自分の意見を持たせ、意見を交わすことで無味乾燥になりがちな学習に少しも意欲がわくようにと企画した。今後も新聞を活用した授業を工夫したい」と話していた。

本人の三大義務の一つである「納税」を取り上げた。最も身近な「消費税」が4月から導入される直前だ

西宮市立平木中学校校舎3月6日、校内で「学び合」と「言葉の力」をテーマにした授業研究会を開いた。写真。同校では、生徒が5年前から「社会科NIE（ネット・インフォメーション）」に取り組んでいる。導入当初は、社会科に興味・関心の低かった生徒も、新聞から好みの記事を切り抜いて貼っていくうち、視野が社会全体に広がり、学習意欲が高まってきたという。